

長く働いてくれるのは誰？

「長期勤務」の分析

Contents

- 〈1〉誰が「長期勤務」を希望しているのか？
- 〈2〉実際に「長期勤務」している人たちとは……
- 〈3〉長期勤務者の、その続ける理由
- 〈4〉長期勤務者の、それでも辞めた理由

【調査概要】

調査手法： インターネットリサーチ

調査対象： 北海道、首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）、東海（愛知、静岡、岐阜）、関西（大阪、京都、兵庫、滋賀）、九州（福岡）在住
かつ 1年以内にアルバイト・パート、契約社員、派遣社員のいずれかに就業した15-34歳の男女

調査時期： 2008年7月

サンプル数： 3000名

「anReport」では、求職者のライフスタイル、意識の変化、また人材採用・戦力化、等の各種アンケート調査を定期的を実施。労働統計等の資料と併せ、毎月一回「トレンドDATA」として発表をしています。
株式会社インテリジェンス an Report編集部 E-mail:an_report@inte.co.jp

1 誰が「長期勤務」を希望しているのか？

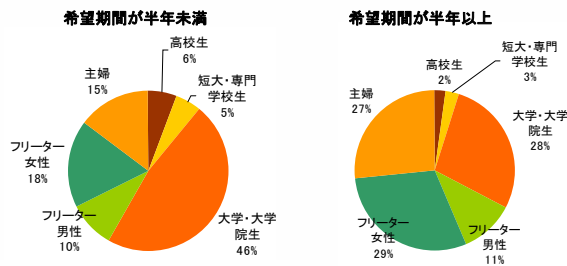
～安定を望む立場の主婦、安定から先を目指すフリーター女性～

長く働いてくれる人とは、一体どんな人材なのか——。ソレを探るために、長期勤務を希望する層を多角的に掘り下げてみたい。それを進めるにあたり、今回、ひとつの基準として半年以上の勤務を「長期勤務」とすることにした。

ではまず、どんな人たちが長期勤務を希望しているのだろうか。そこで、属性別に希望する就業期間を調べた(図1-1)ところ、半年未満を希望する層が半年以上よりも割合として多かった属性のうち、大学・大学院生はその差が18%と最も大きかった。高校生や短大・専門学校生もわずかだが、半年未満の希望が多い。対して、半年以上の勤務を望む割合の方が多かったのはフリーター女性と主婦で、ともに10%以上も上回るという結果となった。

この結果から、学生は他の属性と比較して短期の勤務を、また、学生を除く女性に限っては長期の勤務を、それぞれ希望する傾向が強いと言えそうだ。では、その理由はどこにあるのだろうか。

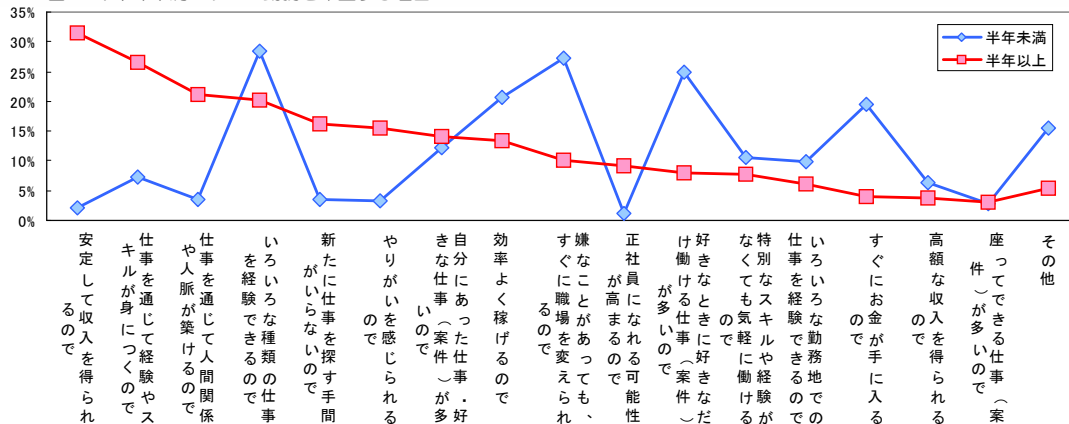
図1-1. 今後の希望契約期間



半年未満、もしくは半年以上の勤務を希望する理由をしてみると(図1-2)、そのグラフの形の違いからも、両者の理由に大きな違いがあることがよくわかる。まず、半年未満を希望する層でもっとも多かった理由は、「いろいろな種類の仕事を経験できるの」の28%(複数回答・この調査結果に関して以下同様)。次いで「嫌なことがあってもすぐ職場を変えられるので」(27%)、「好きなときに好きなだけ働ける仕事が多いので」(25%)、「すぐにお金が入るので」(20%)と続く。

一方、半年以上の勤務を望む理由としては、トップとなったのが「安定した収入を得られるので」の32%。以下、「仕事を通じて経験やスキルが身につくので」(27%)、「仕事を通じて人間関係や人脈が築けるので」(21%)、「いろいろな種類の仕事を経験できるの」(20%)などが上位の理由となった。

図1-2. 半年未満・以上の勤務を希望する理由



この両者の比較で特徴的なのは、一方で上位の理由となったものが、他方では下位にあるという点。とりわけ、半年以上を希望する理由で全体の3分の1を占めた「安定した収入を得られるので」は、半年未満では実に2%しかない。

また、ともに同じ理由が上位となったものとして「いろいろな種類の仕事を経験できるの」があるが、半年未満の場合、当然、仕事を辞めて新たな仕事に就くということの意味している。しかし、半年以上の場合、同じ勤務先内の所属部署の異動、あるいは経験を積むことでのステップアップによる仕事の変化ということを期待・想定しての回答と考えられる。これは、半年以上の勤務を希望する層の希望理由2位と3位に、それぞれ「仕事を通じて経験やスキルが身につくので」と「仕事を通じて人間関係や人脈が築けるので」が入っている点からも推測できる。これらのデータからも、希望する就業期間の違いは、それを望む理由を大きく変えることがよくわかる。

では、そういう結果を受けて、半年以下を希望する割合は大学生を中心とした学生が多く、半年以上はフリーター女性と主婦が多いという属性別の傾向とは、どう結びつくだらうか……。調査のベースとなるサンプル数で、半年未満の希望者数と半年以上の希望者数が異なるため(後者の方が多い)、一概には結論づけられない部分もあるが、考えられることとして、以下のような点があるだろう。

まず、本業が勉強である学生にとっては、好きな時間に好きな仕事を気楽にやりたい、という意識が働いての結果ということ。逆に、主婦の多くは「夫とともに家計を支える」という立場のため、学生のような気楽さはなく、職場や仕事内容に多少の不満はあっても、慣れた職場で安定的に働けることが望ましいのではないかと。また、フリーター女性は、フリーター男性よりも職を短期間で変えるリスクを感じると同時に、安定した収入を優先しつつ、経験を積み、さらに上を目指すという意識があるのかもしれない。

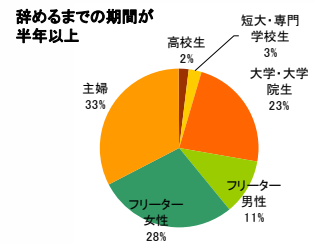
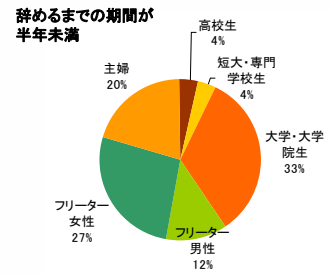
2 実際に「長期勤務」している人たちは…… ～長期勤務は、大学生を除けば、総じて希望どおり～

では、実際に長期勤務をしているのはどんな人たちなのか。また、それは長期勤務を希望している人たちと合致しているのか。ここでは、この点を探ってみることにしよう。

まずは、属性別に就業期間を調べた結果から(図2-1)。もっとも最近辞めた職場について、働き始めて半年未満で辞めたのか、あるいは半年以上経って辞めたのか。各属性について、その割合を比較してみると、まず半年未満の方が多かったのは、高校生、短大・専門学校生、大学・大学院生、フリーター男性。中でも、大学・大学院生は33%と23%と、10%も半年未満が多かった。対して、半年以上の方が多かったのはフリーター女性と主婦。とくに主婦は、20%から33%と、13%もアップしている。

さらにこの結果を、先の〈1〉で取り上げた、希望する就業期間を属性別に比較した円グラフと比べてみたい。まず、希望期間が半年未満と実際就業期間が半年未満だった場合だが、希望では全体の半数近い46%を占めた大学・大学院生も、実際では33%に落ち込む。主婦とフリーター女性は逆に増え、とくにフリーター女性は9%も割合を押し上げた。半年以上の勤務では、希望よりも実際の方が増えたのが主婦、減ったのが大学・大学院生。ただ、それでも半年未満ほどの大きな変化はなく、その意味で、半年以上の勤務の方が希望と現実と各属性でズレが少ない、と言えそうだ。つまりは、実際に半年以上勤務している人たちは「おおむね希望どおり」という可能性が高く、大学・大学院生だけ「希望とは異なる就業期間」である割合がいくらか高い、という実態が浮かび上がってくる。

図2-1. 属性別の就業期間



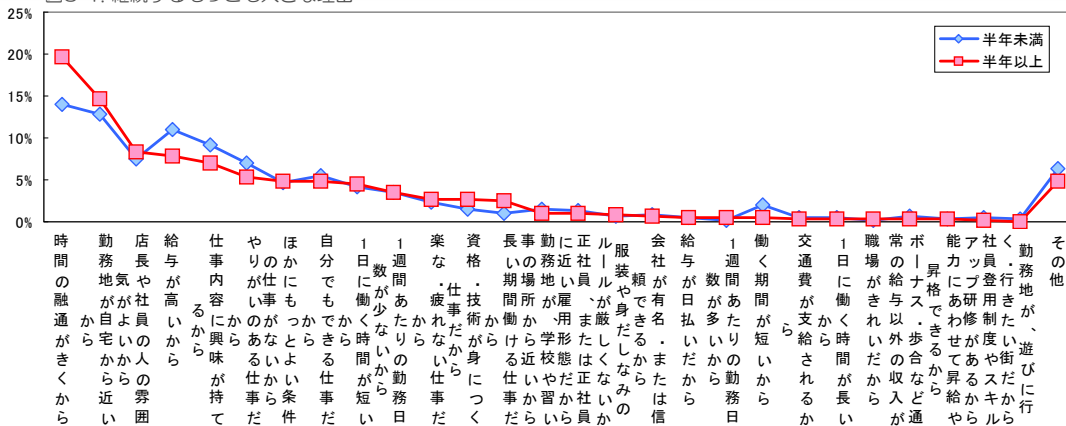
3 長期勤務者の、その続ける理由

～希望した理由では、そのとおり続かない!?!～

今回のテーマである長期勤務だが、では実際にそれを実践している人たちの理由は何なのだろうか。また、それは長期勤務を希望する人たちの理由と同じなのだろうか。

直近の就業について継続期間が半年未満だった人と半年以上だった人の、それぞれの継続理由を調べてみると(図3-1)、半年未満でもっとも多かった理由は「時間の融通がきくから」の14%。さらに「勤務地が自宅から近いから」(13%)、「給与が高いから」(11%)。「仕事内容に興味を持てるから」(9%)と続く。半年以上勤務した人の理由も1位は「時間の融通がきくから」で20%。2位以下には「勤務地が自宅から近いから」(15%)、「店長や社員の人の雰囲気が良いから」(8%)、「給与が高いから」(8%)という理由が並んだ。

図3-1. 継続するもっとも大きな理由



ここで気付くのは、両者の理由が良く似ているということ。それはグラフにすると一目瞭然で、少数の理由でも、ほぼ同様の割合を示していることがよくわかる。違いとしては、半年以上勤務した人は、半年未満の人よりも時間の融通やイェチ力を好む傾向が若干強く、給与に関しては関心がいくらか抑えめ、といったところだろうか。

しかも、この結果を、〈1〉で触れた半年未満、半年以上の勤務を希望するそれぞれの理由がまるで異なっていたことと比較すると、きわめて対照的だ。加えて、希望時で上位だった理由で、ここでも上位に入っているものと言えば、半年未満の勤務を希望した理由で2番目に多かった「好きなときに好きなだけ働ける仕事が多いので」(「時間の融通が効くから」と同じ理由と判断)だけで、あとはまったく一致を見ない。この結果も興味深い。

では、この継続理由を職種別に分類したらどうだろう(図3-2)。今回、サンプル数の多かった6職種について見てみると、理由の1位に「時間の融通がきくから」、2位に「勤務地が近いから」となった職種はオフィスワーク(事務)、フード、軽作業・ラインスタッフ、医療・福祉(この職種は「仕事内容に興味を持てるから」が同率2位)の4職種。販売は1位と2位が入れ替わっているだけで、この5職種はほぼ同じ結果と考えていい。

これらを差別化するならば、各3位に注目すべき。オフィスワークは「給与が高いから」と収入面を理由に挙げ、フードと販売が「店長や社員の雰囲気が良いから」という職場環境や人間関係を重視している。軽作業・ラインスタッフは「自分でもできる仕事だから」、医療・福祉は「仕事内容に興味を持てるから」と内容は違うが仕事の中身に触れている点は同じだ。

残ったもうひとつの職種、講師・インストラクターは他の5職種とは異質の結果となった。1位は「やりがいのある仕事だから」、2位に「時間の融通がきくから」、そして3位に「1週間あたりの勤務日数が少ないから」。仕事内容を第一としながらも、効率性も求めたため、という継続理由全体が見えてくる。

図3-2. 半年以上勤務者の職種別継続最大理由TOP5

オフィスワーク		講師・インストラクター	
1位	時間の融通が利くから	1位	やりがいのある仕事だから
2位	勤務地が自宅から近いから	2位	時間の融通がきくから
3位	給与が高いから	2位	1週間あたりの勤務日数が少ないから
4位	仕事内容に興味を持てるから	4位	給与が高いから
4位	ほかにもっとよい条件の仕事がないから	4位	1日に働く時間が短いから

フード		医療・福祉	
1位	時間の融通が利くから	1位	時間の融通がきくから
2位	勤務地が自宅から近いから	2位	勤務地が自宅から近いから
3位	店長や社員の人の雰囲気がよいから	2位	仕事内容に興味を持てるから
4位	給与が高いから	4位	店長や社員の人の雰囲気がよいから
5位	ほかにもっとよい条件の仕事がないから	5位	やりがいのある仕事だから
		5位	1日に働く時間が短いから

販売		軽作業・ラインスタッフ	
1位	勤務地が自宅から近いから	1位	時間の融通がきくから
2位	時間の融通がきくから	2位	勤務地が自宅から近いから
3位	店長や社員の人の雰囲気がよいから	3位	自分でもできる仕事だから
4位	仕事内容に興味を持てるから	4位	店長や社員の人の雰囲気がよいから
5位	やりがいのある仕事だから	4位	給与が高いから
5位	自分でもできる仕事だから	4位	ほかにもっとよい条件の仕事がないから
5位	1日に働く時間が短いから	4位	楽な・疲れない仕事だから
		4位	給与が日払いだから

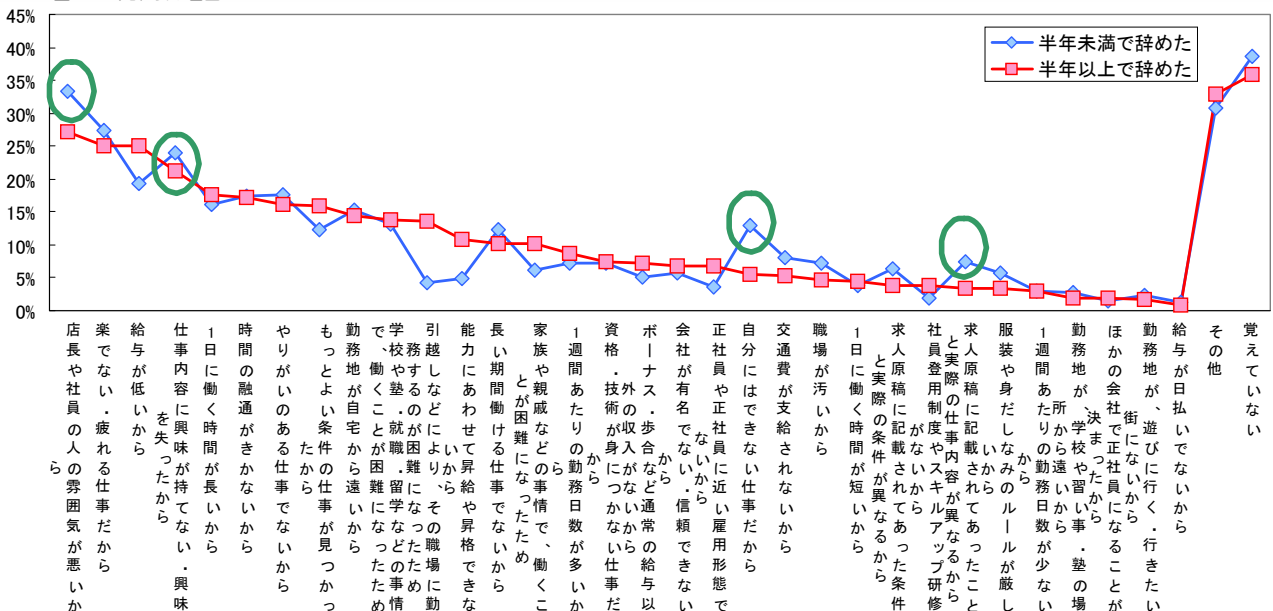
4 長期勤務者の、それでも辞めた理由 ～職場環境や待遇の悪化が引き金に～

最後のアプローチとして、長期勤務したものの、それでも辞めた理由を調べてみることにする。まずは、直近の就業について継続期間が半年未満だった人と半年以上だった人の、それぞれの辞めた理由だが(図4-1)、両者に違いがいくつか見られた。

辞めた理由でもっとも多かったのは、ともに「店長や社員の雰囲気が悪いから」だが、半年未満では33%、半年以上では27%とポイントに差があることがわかる。こういった職場環境、人間関係の悪化は、半年未満のより早い退職を引き起こすということだろう。同様に半年未満の方が多い理由としては「仕事内容に興味を持っていない・興味を失ったから」「自分にはできない仕事だから」「求人原稿に記載されてあったことと実際の仕事内容が異なるから」など、仕事内容に関することが目立つ。

逆に、半年以上の人に多かった理由としては「給与が低いから」「もっと良い条件の仕事が見つかったから」「能力に合わせて昇給、昇格ができないから」など。待遇や職場での評価といった点が退職の引き金になっているようだ。

図4-1. 辞めた理由



次にこの結果を職種別で見てみよう(図4-2)。

ここでは、より多くの職種について調べたこともあり、あくまで今回のテーマである半年以上の勤務者に限って言及することにした。

職種別辞める理由1

営業職では「仕事内容に興味がないから」「1日に働く時間が長いから」が目立っており、「求人原稿に記載されたことと実際の仕事内容が異なるから」も他職種と比較して多いことがわかる。オフィスワークや医療・福祉では、全体の集計結果とよく似た結果となったが、「やりがいのある仕事でないから」「勤務地が自宅から遠いから」といった理由の多さに特徴が見てとれる。クリエイティブでは、「店長や社員の雰囲気が悪いから」が目立っており、一方で「家族や親戚などの事情で働くことが困難になったため」といったやむを得ない理由も目立った。コンピュータ・インターネットでは「能力に合わせて昇給、昇格ができないから」が多かった。

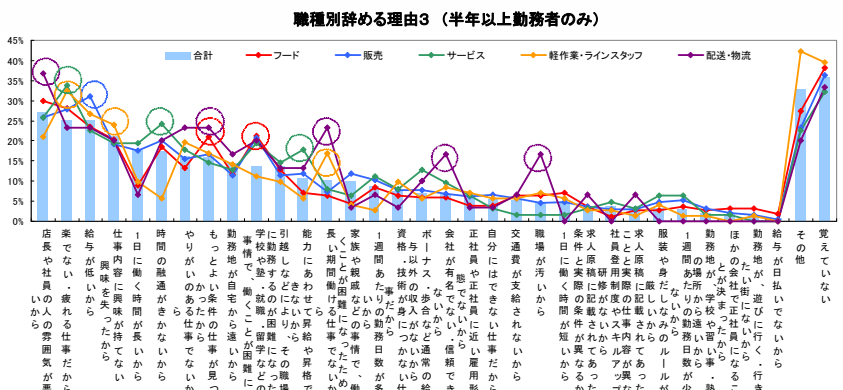
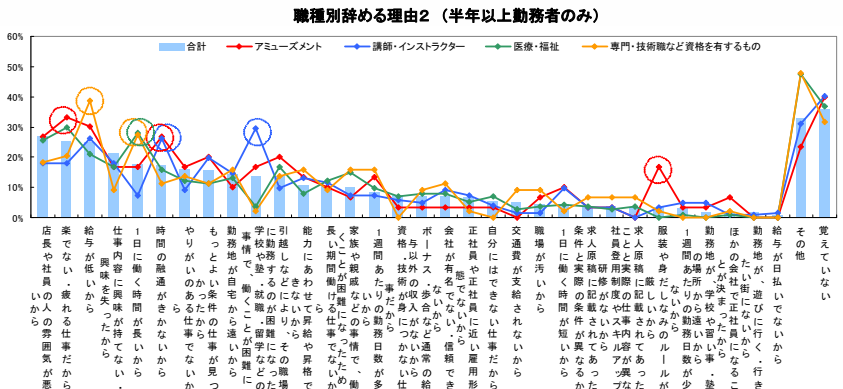
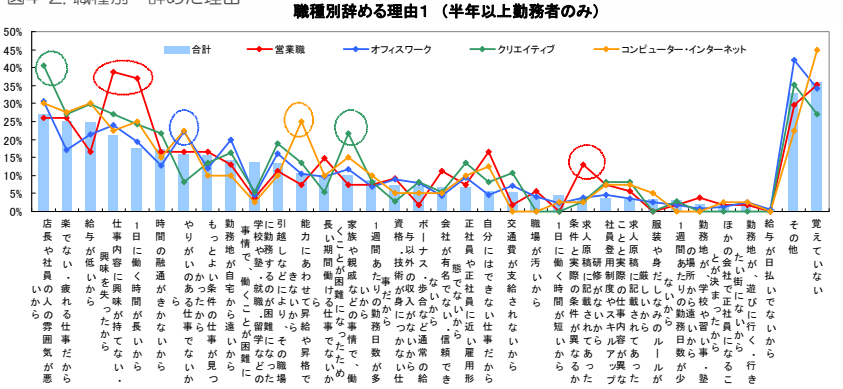
職種別辞める理由2

アミューズメントでは、「服装や身だしなみのルールが厳しいから」「楽ではない・疲れる仕事だから」といった理由の割合が多く、講師・インストラクターは「学校や塾、就職・留学の事情で働くことが困難になったため」が突出して多い。専門・技術職では「給与が低いから」の多さが目立つ。

職種別辞める理由3

フードの場合、「もっと良い条件の仕事が見つかったから」が全体平均より多く、販売は「給与が低いから」、サービスは「楽ではない・疲れる仕事だから」「時間の融通がきかないから」に回答が多かった。また、軽作業・ラインスタッフでは「楽ではない・疲れる仕事だから」が多く、配送・物流では「長い期間働ける仕事ではないから」の他、「会社が有名でない・信頼できないから」「職場が汚いから」を選択する人の割合も多かった。

図4-2. 職種別 辞めた理由



【今月のまとめ】

- 長期勤務(半年以上)を希望するその意識は、主婦とフリーター女性により強いことがわかった。つまりは、主婦やフリーター女性を採用のターゲットにすることで、長期勤務を期待できる人材の確保がしやすいという効果も望めるはずだ。
- 長期勤務している人と、勤務が半年未満の人について構成を比較すると、やはり主婦に長期勤務者が多い。逆に大学・大学院生は少なくなる。この点からも主婦層は、長期勤務の人材として注目できる。
- 一方、大学生を中心とした学生の長期採用は難しいかと言えば、決してそうとも言い切れない。学生は総数も多いだけに、長期勤務を望む理由の上位である「安定した収入」「経験やスキルが身につく」といった点を丁寧にアピールすることで、期待する採用も十分望めるだろう。
- 長期勤務を期待して採用したからには、早期で辞めないよう、日頃からケアしたいところ。半年以上勤務した人の継続理由として多かった「時間の融通がきく」や「店長や社員の人の雰囲気が良いから」は、離職対策として有効と考えたい。
- 職種別では総じて「時間の融通」と「勤務地が家から近い」が継続理由の上位だが、それ以外に事務職なら「給与が高い」、フード、販売職なら「職場の雰囲気」、軽作業・ラインスタッフは「自分でもできる仕事」、医療・福祉は「興味のある仕事内容」といったことがポイントとしてある。職種ごとにこういった点を重点的にフォローしていくことが、長期勤務につながっていくのではないだろうか。